

# 平成 30 (2018) 年度事業報告書

平成 30(2018)年 4 月 1 日から平成 31(2019)年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

## 1 事業の成果

**先輩が後輩の挑戦を支える自然な循環が生まれた。挑戦が循環する生態系の兆しを感じた。一方で社内体制、支援人材の育成、ケアが課題。**

2018 年度を数字で捉えてみると、プログラム提供者数は、前年度より 1559 人減の 5,036 人(前年度 6,595 人)となり、法人を設立した 2010 年からの累計では延 23,048 人の若者に社会と関わる接点を創出した。なお、事業を共に推進して下さる協力者(講師、運営補助、業務パートナー)は、138 人減の 242 人(前年度 380 人)となり、設立からの累計では延 2,655 人の力を得ることができた。活動時間は、4,777 時間減の 12, 871 時間(前年度 17,648 時間)、設立からでは延べ 81,953 時間となった。

情報発信の数値については、オフィシャルサイトは、468UU 増の 7,308UU(前年度 6,840 UU)、1240pv 増の 14,422pv(13,878pv)、プログラム募集サイト「SOZO」は、4976UU 減の 10,306 UU(前年度 15,282 UU)、9,518pv 減の 23,026pv(32,544pv)、Facebook ページは、123 人増の 2220 いいね！(2097)、Twitter のフォロワーは、92 人増の 1033 人(941 人)となった。

財政に関して、収入は前年度より 5,733,424 円減の 26,565,248 円(前年度 32,298,672 円)となった。支出は、前年度より 4,297,279 円減の 25,747,598 円(前年度 30,044,877 円)で、当期経常増減額は、817,650 円の増であったが、今年度は、過年度損益修正損(865,800 円)、法人税の支払(622,900 円)があり、当期正味財産額は、671,050 円減の 2,226,999 円(前年度 2,898,049 円)となった。

全体的に縮小傾向の要因としては、職員の退職に伴い前年度 6 人工での事務局体制から、3.5 人工での実施の影響が大きい。職員の退職については、自身のキャリアステップの要素が大きいものの、個人意志を尊重したマネジメント、また常に社会的要請と期待を受け止めながら道なき道を切り拓いていく業務についてのストレスへのフォローが足りていなかったことも否めない。

一方で、プログラムを提供した若者たちは力強い成長を続けており、支援の力自体は、若者、社会の期待に応えようと自負しているが、そうした力を高めていける社内の人材育成の仕組み、職員がより安心して働き、力を発揮できる社内環境の充実が必要だと実感した。

また事業を捉えると、全体的にプログラムの開発運営業務の比重が大きくなっている。その一因には、単年度契約ではない継続したプログラムの運営実施が増えていること。また企業、行政、大学等から新しい挑戦の際に、相談を受けることが増え、その相談から具体的な提案、提案内容の具現化、実施と、展開することができていることが考えられる。提案力と実行力については、受注側でありながらも単なる下請事業者にならないように、先方の求めていることを受けとめながら業務だけの提案ではなく、これからのあるべき社会の姿を見据えた提案に重点をおき、共に創る領域を提案するようにしている。それが、共に未来を切り拓くノウハウを積み上げ、未来を創るパートナーとしてのよい関係が構築できていると考えている。

加えて、アイデアネクスト修了生など、支援してきた若者が各地で活躍している。その先輩たちが、新たな挑戦者に指導するなど、先輩が後輩を育む循環が起き始めた。また若者の間だけでなく、各支援機関、教育機関と連携し、未来の人材を育み支える大きな流れができつつある。

今後に向けては、一度関わった若者が次のステップを見出し、進んで行けるよう、プログラムのより一層の連動と体系化に向けて次年度も注力していく。プログラム開発、業務オペレーション、参加者管理、情報発信、それぞれ観点から見直していく。またプログラムとしての性質上、日時、場所が定められていることが多く、より日常的に挑戦者が集い、関わり合いやすい環境、仕組みの実現に向けて取り組んでいきたい。

**【総括】** 事業計画の執行については、概ね達成できたと考えているが、職員の退職等当初の実行体制が粗めず、未来の布石となるアクションの推進力が落ちた。プログラム開発・提供を中心とした事業スキームの当会への期待値は依然高く広がる傾向にある。しかしながら、社内の人材育成・定着を踏まえ、事業を動かしてく事務局の強化、内部人材のノウハウ/ネットワークの蓄積、共有が不十分である。更に、社会的必要性と期待に応えていけるよう、これまでのプログラム開発・運営中心の事業スキームから脱却し、2019 年度は、第二弾となる新たな事業スキームの開発と運用に挑んでいく。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業の種類 (定款)	事業群	事業内容	事実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の支出金額 (千円)
① 社会事業を行う人材育成事業	実践型インターンシップ事業	「GENBA CHALLENGE」 「宇都宮大学課題発見・解決インターンシップ」	通年	栃木県内	2名	大学生、20代社会人、地元中小企業 延95名/2672.5時間	435
	起業・創業ネットワーク事業	若者の社会をよくするスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」	10月～3月	事務所、宇都宮大学、栃木県青年会館	5名	社会をするアイデアを持った39歳以下の若者 延131名/529時間	843
		宇都宮市起業支援事業 「ソーシャルビジネスセミナー」 「うつのみやStartup Camp」	9月～11月	宇都宮市中央生涯学習センター	3名	起業、創業に関心のある若者 延58名/134時間	1,256
		宇都宮起業家養成事業 「起業の実際と理論」運営	10月～2月	宇都宮大学	2名	大学生、社会人等 延313人/469.5時間	1,328
	地域担い手定着事業	首都圏若手人材UIJターン事業 「はじまりのローカルコンパス」 「Jimoto TOCHIGI」	8月～3月	首都圏 栃木県内各地域	2名	首都圏在住UIJターン希望の若手社会人、県内地域活性化プロジェクト各団体 延182人/803時間	5,107
		地域の担い手育成事業 「那須烏山地域おこし協力隊研修」	6月～3月	那須烏山市	1名	那須烏山市地域おこし協力隊 延56人/359時間	2,754
		とちぎ地域づくり担い手育成事業	7月～3月	栃木県庁	3名	地域づくりに関心のある若者、社会人 延339人/1481時間	3,354
	若者人材育成事業	COC+連携事業	9月～3月	宇都宮大学	2名	延37人/194時間	5,141
		宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」 「次世代経営マネジメントプログラム」	4月～3月	宇都宮大学	2名	延744人/1245.5時間	
		若者有権者向け選挙ワークショップ運営事業	12月～3月	宇都宮大学	1名	延32人/128時間	
		矢板市就業支援運営業務	12月～3月	栃木県内	2名	延21人/336時間	
		コカ・コーラボトラーズジャパン CSRプログラム開発・運営 「ミライキャンパス」	6月～3月	イエローフィッシュ オリオン通りACプラザ	1名	延24人/72時間	
	②ソーシャルプロジェクト支援事業	とちぎ手仕事プロジェクト FukuFuku	通念	福島県いわき市	1名	復興活動に関心のある若者 延0人/0時間	70
⑥社会事業に関する相談/アドバイス事業	講演	通年	栃木県内	2名	29回、延3004人/4387.5時間	893	
③情報発信事業	情報発信 WEB(HP, SOZO)、SNS(Facebook, twitter, LINE@)管理・発信、資料発送	通年	当会事務所	3名	WEB(オフィシャルサイト、SOZO 合計) 17,614UU 37,448 PV SNS(Facebook) 2,220 いいね! (123増) (Twitter) 1033 フォロワー (92増)		

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	支出額 (千円)

※ 「事業名」の欄は、定款5条に掲げられている事業名を記載し、事業ごとに内容がわかるように記載してください。

※ 「その他の事業」を定款に掲げていない場合は、(2)「その他の事業」欄は削除してください。